

A SEED JAPAN が未来世代として掲げる「Rio+20 に対する 2 つの提言」

～経済は生命（いのち）のために～

2011 年 11 月 1 日

Rio+20 は 1972 年の国連人間環境会議と、続く 1992 年の国連環境開発会議（リオサミット）以来取り組まれてきた「持続可能な開発」（Sustainable Development）に関するすべての政治的重要課題を共有し、国連としての人類のポジションを確認すべき重要な会議です。「グリーンエコノミー」の名のもとに進む改革は、富の一極集中の是正、意思決定および情報の非対称性の是正、資源利用における外部不経済の是正に取り組まなければならないなりません。それは多国籍企業ロビーによる行き過ぎた自由貿易体制と金融資本主義によって生じた世界各地の被害の検証に基づくべきです。

人類はこの 40 年、貧困根絶、紛争予防、環境保全、人権尊重などについて、「生命を守るため」という価値観に基づき、多くの国際的・地域的な合意を積み重ねてきました。しかしこの 40 年、人類は結果的に、あらゆる政治課題の解決の手段として「経済を持続的に成長させること」が、最も必要であるという価値観に基づいた行動を優先してきました。2010 年 10 月に日本で開催された MOP5/COP10 では、GM 種子開発企業による有機農家（非 GM 農家）への訴訟や圧力の事例が報告されました。（註 1）グリーンウォッシュは未だ現在進行形の問題です。

去る 3 月 11 日、東日本大震災・福島第一原発事故に遭遇した日本の私たちは、「経済を成長させる」価値観が、いかに「生命を守る」価値観を損ない、見えにくくし、過去・現在・未来にわたって地域における多くの犠牲を強いるかを学びました。「経済成長のためには避けられない犠牲がある」という考えは誤りです。私たちは、「生命を守る」ことと、「経済を成長させる」ことを衝突させるのではなく、「経済は生命のためにある」ことを、人類の寄って立つ価値観として合意する所から、人類がやりなおすことを提言します。

私たち青年は未来世代としての責任を認識し、その責任を果たすとともに、Rio+20 において、すべてのステイクホルダーに対し、以下の 2 つの提言をします。

提言 1：1972 年から続く環境・人権・平和・ジェンダー・先住民・生物多様性に関わる条約・イニシアチブを経済イニシアチブの上位に置き、それらが実施される国連制度の実現に向けて努力することを宣言してください。

提言 2：「おカネが中心の経済政策の廃止と市民金融・SRI 推進」「軍事費の削減と貧困根絶資金の増額」「原子力発電技術・遺伝子組換え技術からの撤退と自然エネルギー・有機農業の推進」を表明してください。

未来世代としての私たち青年の責任とは、今ある不公正、格差、環境破壊、戦争・紛争、金融危機から目をそむけず是正に取り組む責任だけでなく、これから生まれる人類と、その人類が寄って立つ生物多様性をこれ以上損なわない予防に取り組む責任も含まれます。

私たちは、提案にあたって、自らも二つの方法で責任を果たします。

ひとつ目は、自らのライフスタイルを変えることです。私たちを取り巻く雇用、資源、金融、情報つまりヒト・モノ・カネ・情報について、無知であることを脱却し、社会的責任を果たす利用のあり方が当たり前となるよう実践します。それは、信頼できる金融システムや情報システムの構築であり、食や資源やエネルギーの生産への参加を、日々の暮らしの中絶えず実践することを意味します。

ふたつ目は、国家・国際機関・多国籍企業といった「経済成長の名のもとに世界の意思決定を行う存在」に、既存の経済システム（グローバリゼーション）を変えることを働きかけ、対話と協働を実践することです。雇用・資源・金融・情報の利用のあり方に、「経済成長のための犠牲（地域・群落を犠牲とすること）を正当化させない社会規範」という社会責任を求め続けます。

註 1：食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク「MOP5 報告書」より